

パネル討論

STI政策人材育成教育プログラム による15か年の取組の成果と これから

2025年11月21日（金）

ご参加の皆様

林 隆之 教授（政策研究大学院大学GIST）	沼尻 保奈美 様 （政策研究大学院大学GIST修了）
柴山 創太郎 教授（東京大学STIG）	佐藤 靖祥 様（東京大学STIG修了）
青島 矢一 教授（一橋大学IMPP）	米澤 政洋 様（一橋大学IMPP修了）
平川 秀幸 教授（大阪大学STiPS）	石尾 麻由 様（大阪大学STiPS修了）
川上 浩司 教授（京都大学STiPS）	杉谷 和哉 様（京都大学STiPS修了）
小林 俊哉 准教授（九州大学CSTIPS）	内田 祐紀哉 様（九州大学CSTIPS修了）

伊地知 寛博 モデレーター
加納 寛之 モデレーター

第1部：育成拠点側の方々から

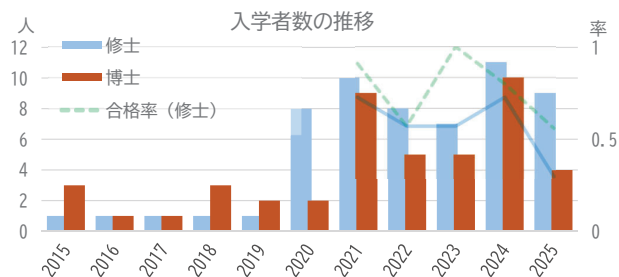
- どのような人材の育成を狙い、実際にどのようにして教育プログラムを運営したか？
- 各教育プログラムが想定していた通りに人材を育成することができたか？
- 日本全体として「科学技術イノベーション政策における「政策のための科学」に関わる人材を育成」することに、各教育プログラムは、どのように寄与してきているか？
- 成果が挙げがった点、期待どおりとはならなかった点は何か？
- SciREX事業終了後の各教育プログラムの在り方・見通しは？

3

拠点大学の説明資料

4

● 入学者



● 入学者の所属組織の例

政府：内閣府、文部科学省、経済産業省、国土交通省、厚生労働省、総務省、外務省、防衛省・自衛隊、原子力規制庁
自治体：東京都、静岡県、埼玉県、福島県、ほか
公的機関：科学技術振興機構、宇宙航空開発機構、国際協力機構、森林総合研究所、人間文化研究機構、JETROアジア経済研究所、国立国際医療研究センター、笹川平和財団海洋政策研究所、国際文化会館、ほか
民間企業：三菱総合研究所、三菱UFJ総合研究所、みずほ総合研究所、アクセントチュア、EYストラテジー・アンド・コンサルティング、日本貿易保険、楽天、ソフトバンク、NEC、アステラス製薬、ポッカ、バイエルン、ほか
海外：国連開発計画(UNDP)、タイ国家高等教育科学研究イノベーション政策事務局(NXPO)、ベトナム科学技術省、米国陸軍、インドネシア研究開発省、エジプト石油・鉱物資源省、エジプト電力省、中華経済研究院(台湾)、ほか

● 修士・博士論文

修士論文・博士論文のタイトルのキーワード



● 修了後の進路・キャリアの例 (入学時と異なる場合)

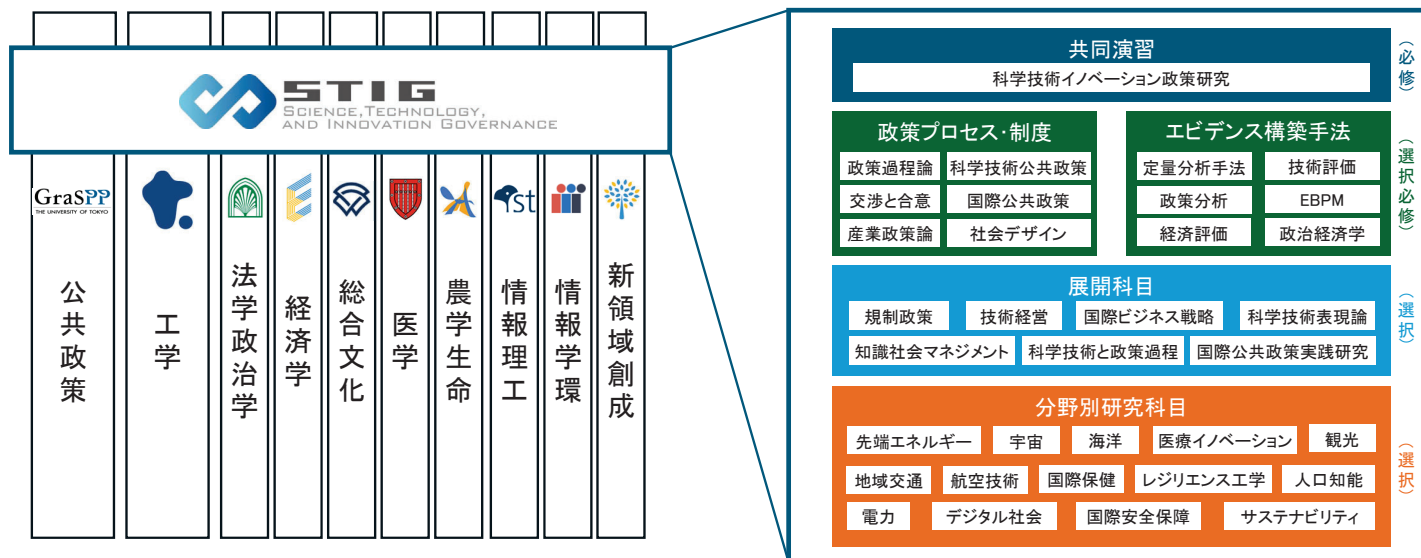
博士課程：京都大学、東京大学国際高等研究所東京カレッジ、JST CRDS、大阪府立病院機構大阪国際がんセンター、トヨタ、ほか
修士課程：国際連合工業開発機関(UNIDO)、国際社会経済研究所、内閣サイバーセキュリティセンター、ほか

東京大学

科学技術イノベーション政策の
科学教育プログラム (STIG)

科学技術イノベーション政策の科学教育プログラム

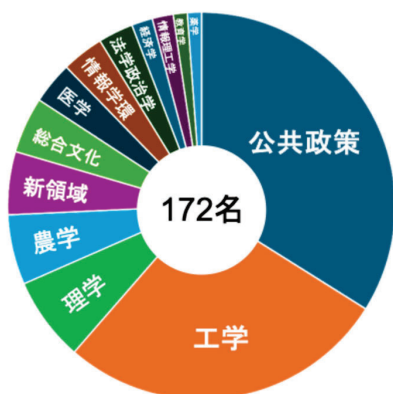
大学院生(修士・博士)を対象とした部局横断型の履修証明プログラム。各所属部局における専門的教育の基盤の上に科学技術イノベーション政策に関する知識・スキルを備えた人材の育成を目指す。



科学技術イノベーション政策の科学教育プログラム

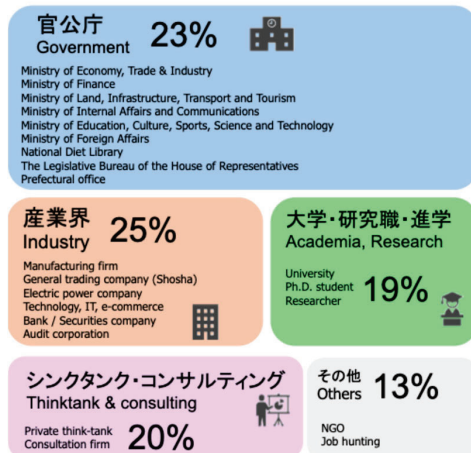
部局横断の学際的教育プログラム、さらに各種ネットワーク(国内外専門家・拠点間・OB/OG)を通じて、科学技術と政策をつなぐ政策形成人材、研究開発マネジメント人材、政策研究者を産官学に輩出。

プログラム登録者



※2025年9月現在

修了実績(198名)



一橋大学

イノベーションマネジメント政策プログラム (IMPP)

一橋大学イノベーションマネジメント政策プログラム：IMPP

1. どのような人材育成を狙ったのか

(1) イノベーションのマネジメントまたは、イノベーションを促進する政策形成や制度設計に関連するテーマで学術的なフロンティアを開拓する人材。

(2) 民間組織におけるイノベーションのマネジメントや、公的機関における科学技術イノベーション政策の形成に対して、適切かつ重要な影響を持ちうる研究人材。

2. 教育プログラムの運営について

- ・ 受講生は、修士号もしくは博士号を持つ、主に理工系の社会人と一橋大学もしくは他大学の博士課程に所属する学生から構成されるサーティフィケートプログラム
- ・ 当初は科目等履修生の制度を活用し運営、後半は履修証明プログラムとして運営
- ・ 最短2年で修了できるコースであるが、ほとんどの受講生は3年で修了
- ・ 理工系の人材が社会科学の研究ができるよう、また、文系の人材が科学技術を理解できるように基礎科目を用意。
- ・ 複数の教員による集団指導のワークショップを開催
- ・ 学術論文の執筆指導に注力
- ・ 国内外での学会発表や論文発表を積極的に支援
- ・ プログラムマネージャーやポスドクによる支援
- ・ 修了生による現役生に対する支援

3. IMPPの特徴

- 実務家と博士課程の学生の相互作用を重視
- 理工系と文系の相互作用を重視
- 学術論文を書けるレベルの分析力を養うことを重視。修了要件の1つは学術論文2本の提出。
- 経営学や経済学を基盤としていること。

4. 想定どおりに人材育成できたか？

- 概ね想定した通りの人材を輩出してきた。
- 修了生の内訳は、大学教員20名、海外大学の教員2名、民間企業に勤務14名、政府・公的研究機関に勤務2名、自社経営5名、その他4名である。大学教員の中には実務家から産学連携などを担う大学教員になった修了生も数名いる。

5. 期待通りにならなかった点

- SciRexとして大学の枠を超えたコミュニティは広がらなかったように思う。
- 教育プログラムとして期待したような学内認知は必ずしも得られなかった。

6. SciREX事業終了後の教育プログラムの在り方・見通し

- 大学院経営管理研究科内の既存の博士プログラム（IMP:イノベーションマネジメントプログラム）に統合する。その結果、2026年度をもって、IMPPは発展的に解消する。
- IMPへの既に統合は進んでおり、2026年募集は統合した形で行われる。
- IMPPとして提供していた講義は一部を除いて継続することになる。
- IMPPを担当していたイノベーション研究センターの教員の一部がIMPの教員として直接博士課程の学生指導にあたることになる。
- 一方でIMPPのOB会であるIMPPフレンズの活動は継続的に行っていく。

大阪大学・京都大学

公共圏における 科学技術・教育研究拠点（STiPS）

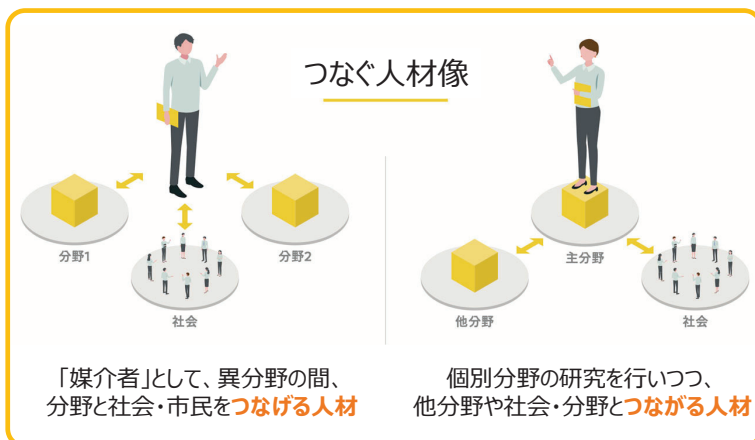
公共圏における科学技術・教育研究拠点(STiPS)の概要

大阪大学と京都大学の共同運営

STiPSの活動目標

科学技術の倫理的・法的・社会的問題(ELSI)に関する研究を基盤とした、公共的関与(public engagement)の活動と分析

学問諸分野間ならびに学問と政策・社会の間を“つなぐ”ことを通じて、政策形成に寄与できる人材の育成



※公共的関与 = 科学技術や公共政策に対する社会の期待と懸念を把握するために、研究者コミュニティや産業界、政策立案者のみならず、一般の市民も含めた多様な人々や組織が、直接・間接に議論し、熟慮を深め、自ら期待と懸念を顕在化し共有していく参加・関与・熟議のプロセス

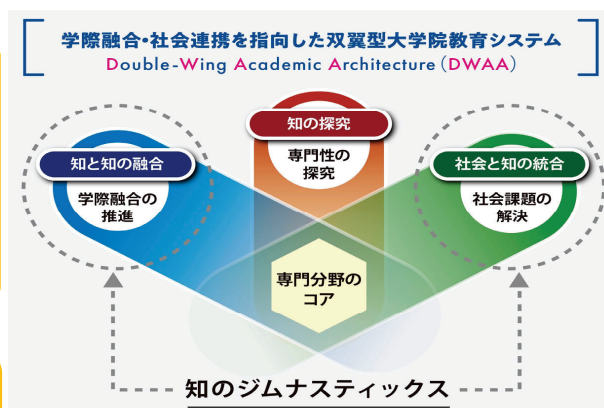
STiPS阪大のプログラム

実施体制

- ❖ 「学際融合・社会連携を指向した双翼型大学院教育システム」(Double-Wing Academic Architecture: DWAA)における「社会と知の統合」の代表的プログラム → 全学展開・文理融合
- ❖ COデザインセンターが開講：「ひと—科学技術」のプログラムとして
- ❖ 社会技術共創研究センター(ELSIセンター)と連携

開講プログラム

- ❖ 2024年度まで
 - 高度副プログラム「公共圏における科学技術政策」(8単位以上)
 - 副専攻プログラム「公共圏における科学技術政策」(14単位以上)
 - 副専攻プログラム「研究プロジェクト+」(14単位以上、博士後期課程)
- ❖ 2025年度から
 - 高度副プログラム「公共圏における科学技術」(8単位以上)
 - 副専攻プログラム「公共圏における科学技術」(14単位以上：副プロ修了者)
 - 高度教養モジュール(2単位)：選択科目(1単位)を4つにモジュール化



COデザインセンター：社会課題を考える3つの視点



STiPS阪大のプログラムの特色

必修科目

- ❖ 社会の中の科学技術概論(2単位)
多様な専門家から、STIに関する**広範な論点**を学ぶ
- ❖ 科学技術コミュニケーション演習(2単位)
多様なバックグラウンドを持つ学生同士の**ディスカッション**
- ❖ 研究プロジェクト(2単位：'25年度からは4単位)
自身の専門性をベースに**社会課題を考える**

座学からディスカッション(異分野交流)まで



選択科目 — 選択科目の一部をモジュール化

- ❖ 「科学と社会の関係と歴史・哲学を知ろう」
科学技術社会論入門 + 科学史・科学哲学入門
- ❖ 「事例を通してELSIの基礎を学ぼう」
ELSI入門:理論編 + ELSI入門:実践編
- ❖ 「イノベーションと公共政策について考えてみよう」
科学技術と公共政策A + 科学技術と公共政策B
- ❖ 「コミュニケーション実践のノウハウを身につけよう」
ファシリテーション入門 + 実践者から学ぶ科学技術コミュニケーション

授業以外の学びの場

- ❖ STiPS Handai 研究会
学内外の研究者や実務家を招いた研究会
- ❖ 市民参加型ワークショップ/サイエンスカフェ
対話の場。学生もグループファシリテーターとして参加



STiPS Handai 研究会



市民参加型ワークショップ・サイエンスカフェ

STiPS阪大：成果と課題

成果：修了実績

- ・ 副専攻プログラム **54**名修了
- ・ 高度副プログラム **80**名修了
- 計**134**名(2025年3月現在)



民間企業
マスメディア
シンクタンク
独立行政法人(JST, NEDO, 高エネ研など)
地方公共団体
大学教員 など

SciREX事業終了後の方針（課題）

現在の実施体制（DWAA + COデザインセンター）のもとで

- ・ 「ELSI人材の育成」を軸にして全学展開
- ・ 高度教養モジュール（2単位）を“入口”として提供
- ・ ELSIセンターとの連携 → ゲスト講師、教育内容への反映

STiPS京大の教育上の特色と特徴的な取組み

開講プログラム

学際プログラム履修コース

政策知を習得（修了認定：8単位）

- 様々な分野の講師陣からなる、リレー講義(現代社会と科学技術B)を中心としたコースワークで、政策分析に必要な学際的知見を習得
- 2019年度より実施

研究プロジェクト修了コース

しっかり政策分析（修了認定：14単位）

- 学際プログラム履修コースの内容にくわえて、研究プロジェクトを進めることで、政策分析についてより深く理解するとともに、研究論文を執筆する
- 研究指導を受け、合計14単位（うち必修6単位）を取得すること
- 大阪大学・京都大学学長連名による修了証を授与

教育上の特色

15部局21名の教員の参画

- 実務家教員による政策課題についての演習
- エビデンスに基づく政策立案に関する演習
- 多分野の教員による、研究プロジェクトの指導

阪大との連携による教育

- ELSI、研究開発評価をテーマとする演習

特徴的な取組み

関西へ出向の行政官との連携

- 公務員志望学生へのアドバイスや面接試験に関する相談対応
- 教育プログラムに関する意見交換

修了生との交流

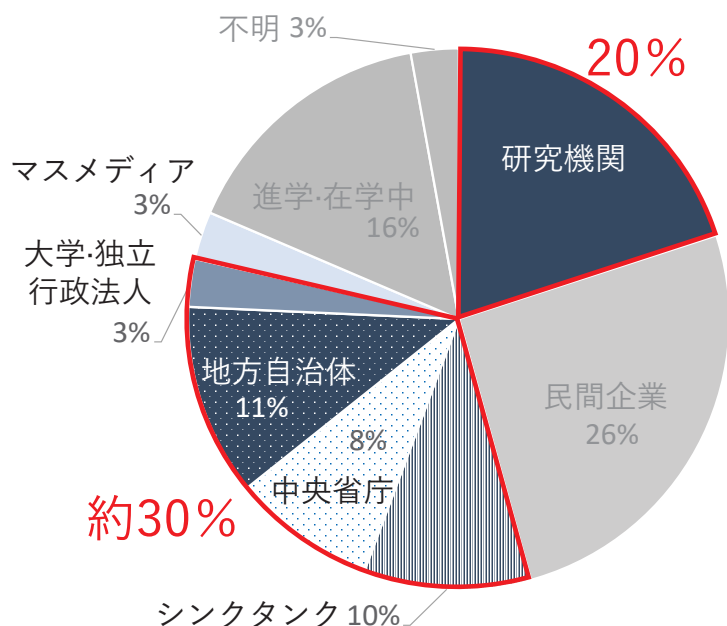
- プログラムでの学びと修了後のキャリアパスに関して、修了生と現役生の交流

19

STiPS京大：成果と課題

修了生の進路 (N=70)

2025.3.31.現在



成果

- 学際プログラム履修コース **28名**修了
- 研究プロジェクト修了コース **42名**修了
- 修了生の**約50%**が研究職人材や高度専門職人材として活躍
- サマーキャンプ実行委員としての貢献
 - R7年度：4名
 - R6年度：1名
 - R4年度：2名

課題

- URAの輩出については今後の課題
- 2026年度以降、大学としてプログラムの継続は困難という見解の下、引き続き模索中

九州大学

科学技術イノベーション政策 人材育成プログラム (CSTIPS)



「科学技術イノベーション (STI) 政策人材育成プログラム」の目標とする人材像 と運営方法

九州大学CSTIPS 小林 俊哉

【育成する人材像】

- 客観的な根拠に基づいて科学技術イノベーション政策を立案・実行できる高度専門人材
- 科学技術イノベーション政策のための科学を専門領域とする研究人材
- 自らの専門領域と科学技術イノベーション政策をつなぐ人材

地方自治体、政府関係機関等の行政機関等において科学技術イノベーションの振興に取り組む政策担当者、そして企業等においてイノベーションの実現を担う経営者や実務家の育成、科学技術イノベーションに関連する学際的な研究や、専門的職業に従事することを志向する本学大学院生を受け入れています。

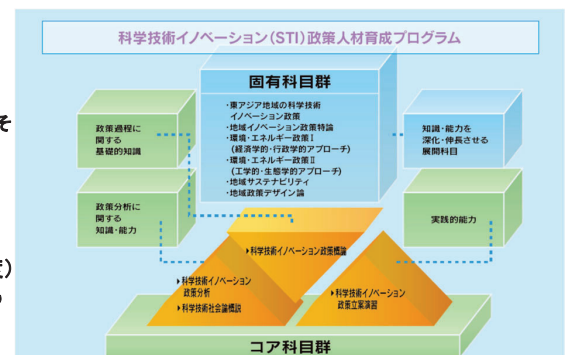
【運営方法】

STI政策人材育成プログラムは、九州大学の全大学院生(文系・理系の全ての学院生、修士・博士の課程を問わず履修可能)が受講できる「大学院基幹科目」として、2013年度(平成25年度)に10科目(コア科目5科目、固有科目5科目)体制で開講し、今年13年目を迎えました。社会人も大学院科目等履修生制度を適用して受け入れています。

2022年度(令和4年度)から、本学経済学府と科学技術イノベーション政策教育研究センター(CSTIPS)の連携により、このコースを一層発展させるため「履修証明プログラム」として再スタートいたしました。

2年間で4科目8単位以上を取得した受講者に経済学府長名の履修証明を授与しています。

授業は大学院生の所属学府の必修科目受講に重ならないよう、また社会人に配慮し平日夜間(18:30~20:00)と土曜日の午前・午後を開講しています。



本プログラムの実績－想定していた通りに人材を育成することができたか？

【人材育成実績】

平成25年度にスタートして以降、令和7年前期までの12年間に、のべ1,002人、実数586人が本プログラムを受講した。この内、4科目8単位以上を修得した修了者(履修証明授与者)は72人(令和6年度まで)に達する。

修了者の進路(社会人は現職)として、准教授・助教等の大学専任教員6人、国立大学法人のURA2人、研究員・専門職等3人、シンクタンク・コンサルタント5人、文部科学省、農林水産省等の中央省庁の国家公務員が3人、福岡県、福岡市、糸島市の地方公務員3人、現職の地方市議会議員2人などを輩出した。

【想定していた通りに人材を育成することができたか？】

目標は各年度20人、既事業期間通算で240人の受講者数を目標としていました。この目標値は上記の通り超過達成できました。前記の「育成する人材像」も上記の通り、文部科学省、農林水産省等の中央官庁、福岡県、福岡市、糸島市などの地方自治体、市議会に人材を送っています。また准教授、助教等の大学専任教員も6人、URA2人、シンクタンク・コンサルタント5人等の教育研究人材を育成できました。このように目標とした人材の育成を実現しております。

◎次頁に特色ある事例を2点ご紹介いたします。

23

事例1 STSステートメントSTAN交流カフェの開催

(12年間の修了生の知の循環を図る取り組み)

九州大学大学院STI政策人材育成プログラム・科学技術社会論概説では、受講者による受講課題「STSステートメント」を福岡市内で開催するサイエンスカフェで広く市民に向けて発表し、市民からの質問やコメントに応えていただくという科学コミュニケーション社会実践を行っている。

この取り組みを「STSステートメント・サイエンスカフェ」と命名している。

2013年度の第1回STSステートメント・サイエンスカフェ(2014年3月15日開催)から回を重ね、2025年3月に12回目を開催いたしました。STSステートメントの発表者はサイエンスアゴラでのSTSステートメント・サイエンスセッションでのご発表者を含めると実に59人に達している。

そこで初期の頃の発表者の皆様に「10年目のSTSステートメント」を作成いただき、STSステートメント発表OB・OGの皆様にご発表いただき、ディスカッションを行う場を以下のように設けた。

開催日時:2025年 5月24日(土)18:00~20:00

会場:電気ビル共創館3F BIZCOLI交流ラウンジ(福岡市中央区渡辺通2-1-82)

進行:総合司会(小林 俊哉)

プログラム(以下、予定):趣旨説明「10年目を迎えたSTSステートメント・サイエンスカフェこれまでと今後」小林 俊哉

①「10年目のSTSステートメント:都市緑化の可能性」T氏 2016年発表者

2016年ご発表時のSTSステートメント「都市木造の可能性」

②「10年目のSTSステートメント:沙漠緑化と私たちの暮らし」M氏 2014年発表者/2014年ご発表時のSTSステートメント「沙漠緑化と私たちの暮らし」

③「10年目のSTSステートメント:主題:リスクリキングがもたらす、イノベーションの可能性/副題:企業内事業者として歩んだ、十年間の実践から」N氏 2014年発表者 2014年ご発表時のSTSステートメント「医薬臨床研究の課題」



写真上「10年目のSTSステートメント」を発表するT氏
写真下「10年目のSTSステートメント」を発表するN氏
2025年5月24日

24

事例2 地域との連携による「地域政策デザイン論」の運営

■ 概要

- 本学の産学連携事業として、2010年に「自立的な地域経営を担う高度人材の育成」を目的とする「地域政策デザイナー養成講座」が発足。実行委員会事務局を九州経済調査協会に置き、福岡地域戦略推進協議会（FDC）との連携によりプログラム運営
- 社会人と本学の院生を受講者として毎年25名程度受け入れ、半年間に亘るグループワークで地域政策を提言
- 石丸事務局長を本学客員教授に招聘する他、FDCスタッフの方々に指導を委嘱
- 本学院生の履修登録窓口を2019年にQRECからCSTIPSに移管。2020年に名称を「地域政策デザインスクール」に変更（本学大学院基幹教育科目としての名称を「地域政策デザイン論」とする）
- 修了生からは自治体の首長、地方議会議員が輩出

■ 基礎自治体との連携

- 2019年度より基礎自治体と連携し、各自治体の課題をテーマにグループを編成
- 連携自治体は、2019年度（大牟田市、大川市、福津市、小城市、みやき町）2020年度（那珂川市、みやま市、飯塚市、東峰村、基山町）2021年度（古賀市、うきは市、宮若市、嘉麻市、別府市）2022年度（直方市、粕屋町、東彼杵町、佐伯市、宮崎市）2023年度（柳川市、太宰府市、嬉野市、平戸市、菊池市）、2024年度（北九州市、佐賀市、菊陽町、竹田市、日置市）
- 小城市の江里山地区における棚田の有効利用と地域活性化の施策や、本学の昆虫学の蓄積を生かした嘉麻市との共同事業など、社会実装に至った例も少なくない



SciREX事業への貢献

【SciREX事業におけるミッションは達成できたか？】

SciREX事業における本学のミッション・・・SciREXセンターのWEB頁に公開中（注）

東アジアと地域イノベーションを領域の軸とし、専門領域と政策のための科学をつなぐ人材の育成を目的として、大学院の専修コースを開講し、これを専攻に発展させる。総合大学としての教育研究資源の強みを活かして「科学技術イノベーション政策教育研究センター」を設立し、地域フォーカスを特色とした教育研究を推進

上記のミッションに沿って、2013年度から12年間のSTI政策人材育成プログラムを推進し、のべ1,002人、実数586人の受講実績を得て、72人の修了者から、中央官庁、地方自治体、教育研究専門人材等を輩出できたことから上記のSciREX事業におけるCSTIPSのミッションは、ほぼ達成できたと考えている。

（注）<https://scirex.grips.ac.jp/programs/>

成果が挙げった点、期待どおりとはならなかった点、今後の見通し

成果が挙げった点

- ・受講者数の目標値を超過達成
- ・育成する人材像に基づき育成した人材を、行政、教育研究機関等へ輩出
- ・他のSciREX拠点大学との連携によるサマーキャンプ運営、コアコンテンツ作成、行政官研修への積極的参画を実現

期待どおりとはならなかった点

当初予定していたSTI政策人材育成プログラムの専攻化をSciREX事業期間中に実現できなかった。

SciREX事業終了後の教育プログラムの在り方・見通し

2025年11月11日現在の見通しでは、2026年3月末日を持ってCSTIPSは廃止となる。

STI政策人材育成プログラムは他の本学学内組織によって引き継がれる見込み

27

第2部：修了生の方々から

- ・受講の動機／きっかけは何だったか？
- ・受講においてどのような経験が得られたか？
- ・キャリア形成に活きていること（教育により得られた内容、考え方等）は何か？
- ・学んだ拠点における教育プログラムで良かった点（「今となって思うこと」も含む）や、こうすればもっと良かったと思われる点は何か？

28

第3部：総合討論

- SciREX人材育成拠点における人材育成の成果として誇れるものは何か？ また、重要だがあまり取り組めなかった活動は何か？
- これまでに、各教育プログラム（拠点）が、また、このSciREX事業の「基盤的研究・人材育成拠点」全体として（すなわち、拠点間ネットワークも含めて）培ってきて基盤となっているものとしてどのようなものがあるか？
- 現状（STI自体、STI政策及び政策形成・執行システム、（STIに限らない）人材育成／大学の状況等）を踏まえて、各拠点を含む国内におけるこれからのSTI政策人材育成に関して、どのような展開を行う／方向性等を取っていくのか？ また、どのような環境／制約条件を考慮する必要があるのか？